

23人の議員が

市の考えを問う

第6回定例会の一般質問が12月8・9・10・11日の4日間にわたって行われ、23人が質問しました。質問と答弁を要約した内容を通告順に掲載します。

たなか よしかつ 田中 喜克	1 「甲賀市文化・芸術のまちづくり」の諸施策にもっと甲賀らしさを前面に 2 滋賀・甲賀は仏像文化の宝庫、保存・鑑賞の博物館の整備を 3 防災拠点・学校給食センターを統合した資材・食料を供給する総合防災拠点の整備を 4 甲賀の将来像「ふるさと・甲賀はひとつ」の路を歩みはじめては
きむら まさお 木村 眞雄	1 土山地域東海道まちなみ景観形成地区の保全について 2 公共交通空白地における交通手段の確保について 3 クマ対策について 4 「忍者の駅」としての甲賀駅をまちの活性化の拠点に
いとめ まさき 糸目 仁樹	1 熊を含めた獣害対策方針について 2 多文化共生の考え方について
ほり いくこ 堀 郁子	1 障がい児者支援と地域・家庭への包括的支援について 2 女子トイレへの生理用品設置の推進について 3 誰もが安心して搾乳できる環境づくりについて 4 市民後見人制度の活用促進と成年後見人等送付先変更の一括手続きについて
ふくい すむ 福井 進	1 ヤングケアラー支援 これまでの取組について 3 学校給食で残る牛乳の対策について 2 ヤングケアラー支援 社会的な支援について 4 米の高騰に対する支援について
おぐら つよし 小倉 剛	1 子ども110番の家による児童生徒の 2 消火栓について 安全対策について 3 農地の適正管理への農業委員会の役割について
やまおか みつひろ 山岡 光広	1 より便利なコミバス・コミタクへ改善を 4 学校給食費の無償化について 2 国保滞納世帯の3割負担措置を 5 高齢者を対象にした「理美容サービス」 3 信楽町朝宮地域でのゴミ処分にに関する の改善を 苦情について
おくむら のりお 奥村 則夫	1 水道水の安全性について 3 わたSHIGA輝く国スポ・障スポレガシーについて 2 畜産・酪農支援について
とみまさ よしあき 富増 力章	1 学校再編について 2 消防団活動について
おかだ しげみ 岡田 重美	1 投票率の向上、市民の参政権を保障する取り組みについて 2 野洲川上流南土山地区での産廃処分場建設計画について 3 開庁時間の見直し(短縮)について 4 あいの土山斎王群行の伝承について 5 介護認定者福祉車両運賃助成事業の要件緩和を
なかじま ゆうすけ 中島 裕介	1 市民が「変わった」と実感できる行政へ 2 福祉バスの運行基準について
にしやま みのも 西山 実	1 道の駅あいの土山について 3 史跡水口岡山城跡保存活用計画案について 2 防災機能としての道の駅の取り組み 4 水口地域の旧道の凸凹改修について 状況について 5 水口公園の管理強化について
おさ もとかず 長 源一	1 農地、地域計画等について 2 協働によるまちづくりについて
でぐち まさゆき 出口 雅之	1 災害時の個別避難計画について 3 わかもの会議について 2 投票所再編による投票率の低下について
むらき けいたろう 村木 慶太郎	1 ふるさと納税(あい甲賀 ふるさと応援寄附金)の「実質的な財源効果」と今後の戦略について 2 シティプロモーションとロケツーリズムの連携による戦略について
きただ れいこ 北田 麗子	1 オール甲賀で取り組む「あいの土山マラソン」について 2 空き家バンクの具体的な活用と今後のビジョン 3 ふるさと納税との向き合い方について
にしむら けい 西村 慧	1 JR草津線沿線の区画整理事業について 2 開発行為に伴う交通安全施設の設置について 3 甲賀市わかもの会議の成果について
こが ともやす 古賀 友康	1 シティプロモーションに関して
にしだ まこと 西田 忠	1 事故から学ぶ子どもたちの安全 2 ポジティブ行動支援で子どもたちに笑顔を
せこ いくじ 瀬古 幾司	1 小学校体育館等の空調設備について 2 空き家バンクの利用推進について
はしもと ひさのり 橋本 恒典	1 国スポ・障スポ開催後の市のスポーツ振興と健康づくりについて 2 県下有数の文化財数「仏像と神社仏閣のまち甲賀市」 3 JR草津線の活性化について
たになが けんじ 谷永 兼二	1 20年後につなぐ安心に向けての中長期財政計画と公共施設等総合管理計画について 2 区・自治会運営の見直しと負担軽減について 3 空き家と地域就労支援の連動について
わかさ けんた 若狭 健太	1 甲賀市公共施設等総合管理計画に基づく第1期行動計画の進捗と優先度について 2 政治参加を支援する環境整備について 3 増え続ける空き家に若者が定住できる支援を



瑞誠の会

田中 たなか

喜克 よしかつ



甲賀市の将来像 「ふるさと甲賀はひとつ」の路を 歩みはじめては

Q 合併して21年、生じた諸課題の解決、将来の街のあり方、運営を見据えて、大きなまちへの枠組み変更「ふたたび甲賀はひとつ」が実現できないか。そして次なるは、隣接の日野町、竜王町の参画を得て「しが元気都市」の実現を。

A 「甲賀はひとつ」は旧郡内7町が切磋琢磨したまちづくり「まちの姿」の意味合いを深く感じるが、外形的な要素、「まちの人口、面積」の視点で考えると、「規模的メリット」はあるものの、広い面積、今後の人口減少の進行を考えると、甲賀市、湖南市が「一つのまちの姿」を定めることは難しいと認識している。

「甲賀市文化・芸術のまちづくり」 に、もっと甲賀らしさを前面に

Q 甲賀の地で造形活動を行う「アール・ブリュット(生の芸術)」の情報発信、作品展示等に強力な支援の実施ができないか。市内の各種文化・芸術活動で生まれる市民芸術作品は市内各所で埋もれている。この素晴らしい絵画、彫刻を常時展示できる施設を。

A 「アール・ブリュットを支える支援」は年次「ふれるとプロジェクト」「めばえムーブメント」「アール・ブリュット作品展&アートライブ」の開催など情報発信や作品展示の機会づくりを進めている。また、市民芸術作品の展示は、21回を数える「市美術展覧会」開催など、市内文化ホール、公民館、図書館で実施。



公明党

木村 きむら

眞雄 まさお



クマ対策について

Q ①緊急銃猟制度の必要性について。②米原市で緊急銃猟の対応訓練が実施された。甲賀市では予定しているか。③今後、緊急銃猟マニュアルの策定が必要と考えるがどうか。④人間とクマとの緩衝地帯を明確にすることが必要である。行政が取り組むことは何か。

A ①人命被害への予防的かつ迅速な対応が必要なことから、この制度は必要である。②捕獲者の確保や市の体制が整い次第、緊急銃猟の対応訓練を実施したい。③市職員の役割分担、関係機関との連携など、緊急銃猟を実施する際の手順や確認チェックリストをまとめたマニュアルは必要。現在、策定を進めている。④

10年前から「緩衝整備事業」や「獣害に強い里づくり事業」を進めている。里山整備による間伐や竹林整備も同様の効果があるので、引き続き地域と共に緩衝地や里山整備に取り組む。

土山地域東海道まちなみ 形成地区の保全

Q 今後、市民との協働による景観まちづくりが必要。市民への積極的なアプローチをどう進めるか。

A 景観を保全する上で、市民との協働が必要。現状は、市民・事業者・行政が個々に実施している。今後は、三者が一体となって取り組むことが必要不可欠。目標を共有し、行政が主体性をもって連携を図る仕組みについて調査・研究を進める。



無党派

糸目 いとめ

仁樹 まさき



熊の緊急銃猟の専門部局創設を

Q 東北で緊急銃猟を猟友会に委託する事例が目立つが、猟友会は任意団体。緊急の際に担い手が居ない可能性もある。市の中で人材育成をし、常駐する主力の部局を作るべきではないか。

A その通りだと思う。方向性を定めて職員の育成も行う。今、3名の捕獲指導員がいるので、そこも合わせて考えていきたい。

多文化共生は 郷に入っては郷に従えではないか

Q 多文化共生の政策は、外国人住民が日本語や日本文化を理解せずに生活できる環境を整えようとし、それに日本国民が合わせることを求めているのか。郷に入っては郷に従えの通り、外国人側こそが甲賀市の社会に馴染む努力が必要ではないか。

A 産業面で貢献していただいているのでやさしい日本語などの整備は必要と考えるが、一方で日本語をしっかりと習得してもらうように啓発をしていきたい。



公明党

堀ほり

郁子



障がい児者と地域・家庭への 包括的支援

Q ①市独自のヘルパー派遣事業を実施する考えはないか。②制度の狭間の方への支援として必要。検討願う。③障がい者の地域移行・高齢化対応、法人連携、みとり体制について、みとりを見据えた具体的な取組状況・進捗について伺う。④市として事業所への支援はどうか。⑤女子トイレへの生理用品設置の推進で、各学校へ再考の連絡、確認はいかがか。また、公共施設は民間企業と連携しディスペンサーでの提供等はいかがか。

A ①発達課題を理解し支援できる人材の確保、制度の構築や事業化は非常に難しい状況。既存の障害福祉サービス等、支援につな

げられるよう取り組む。②研究する。③国の流れや支援制度を事業所へ情報提供し、事業所のニーズ、課題を国・県へ提言する。④他自治体を参考にする。⑤各学校長へ連絡し、その後の確認をする。公共施設は調査・研究する。

誰もが安心して搾乳できる 環境づくりを

Q ①授乳室で搾乳もできるようにしては。②市民後見人制度の活用促進と成年後見人等送付先変更の一括手続きの仕組みを選択制にして導入しては。

A ①授乳室に搾乳ができるシンボルマークを表示する。②専門職後見人の担い手不足の課題解決、選択制の一括手続きについて甲賀圏域権利擁護支援推進協議会で検討する。



無党派

福井

進



ヤングケアラーへの 「社会的な支援」について

Q ヤングケアラーに関して、背景と支援の在り方を、どのように考えているか。

A 背景には、核家族化の進行、ひとり親家庭や共働き世帯の増加などの社会構造の変化がある。要因の主体は、「ケアラー自身」ではなく、ケアラーが担わなければならない家庭状況にあると認識している。放課後等デイサービス、児童クラブや多文化共生等において、ケアされている家族への「社会的な支援」を進めていくことが、ヤングケアラーの抱えている「しんどさ」の軽減につながっていくものと考え。 「地域共生社会の実現」をめざして、分野を超えてオール甲賀で連携した取組を進める。

「米の高騰」と 「学校給食で残る牛乳」に 関する対策を

Q 米の高騰に関する学校・園の給食に対する支援について、どのように対応するのか。また、学校給食で大量に残る牛乳の現状と対策について、どのように考えているか。

A 秋以降の米の高騰に対して、給食費を維持しつつ、給食の質・量を確保するため、補正予算において、小中学校の給食に2600万円の増額をする。私立園でも対応する。また、牛乳の1日当たりの廃棄量は、2月調査において、小中学校で750本(全体の約11%)。牛乳調味料や飲むヨーグルトの提供、メニュー工夫等の検討を進めている。学校の負担となっている廃棄方法は、コスト面と合わせて検討する。



瑞誠の会

小倉

剛



子ども110番の家による児童生徒の 安全対策について

Q 「子ども110番の家」を児童生徒の安全対策の位置づけで市が設置主体として一元管理しないか。

A 登録数の減少、地域住民への浸透不足、協力者への支援や負担の在り方、表示用品の老朽化や不足など、さまざまな課題が存在し、十分な整理が行われていない状況も見られ、今後は、これらの課題を解決するために一元管理も含め、現在、各校、各ブロックで対応いただいている皆様のご意見を丁寧にお聴きしながら、制度の在り方について検討を進めていく。



消火栓について

Q 従来、消火栓定期点検を行っていた消防団も団員が減少し困難な状況であるのか。

A 消防団員数は減少傾向にあり、消火栓の定期点検が、難しい状況にある地域も、市内にはある。消防団員の担い手が不足する中、地域の安全、安心を確保するためにも、今後は、自主防災組織や支援団員などとも連携し、消火栓の点検を行っていただき、地域ぐるみで、地域防災力の向上に努める必要があると考えている。



日本共産党
甲賀市議員団

山岡
やまおか

光広
みつひろ



より便利なコミバス・コミタクへ

Q より便利なコミバス・コミタクへ改善を求める。①信楽地域、特に雲井・長野間のコミバス運行を。甲南の希望ヶ丘・耕心区等が不便。ダイヤの改善・見直しが必要。②土山の公共ライドシェアであっても無料乗車券の対象に。③無料乗車券を「ICカード」化できないか。

A ①不便をかけていることは承知している。改善の必要性は認識している。少しでも利便性が改善できるよう継続して検討していく。②現時点では考えていない。③導入できれば、利便性が向上するだけでなく、運賃割引サービスにも活用でき業務の効率化につながる。

信楽町下朝宮のゴミ焼却改善を

Q 下朝宮地域でゴミ焼却に伴う煙と悪臭で地域住民が困っている。いつから、何を燃やしているのか。生活環境に影響を及ぼす原因は一日も早く取り除くべき。

A 令和5年12月頃から通報を受けて現地確認している。届出が必要のない大型の水冷式焼却炉を使用。焼却しているのは、一般廃棄物(紙と木くず)と認識している。ただ敷地内には産業廃棄物と思われるゴミも残材しているので、県と連携して継続監視に務めている。



畜産・酪農支援について

Q ①畜産・酪農の現状と滋賀県での位置付けは、②物価高騰下での販売価格の推移は。③畜産・酪農にある一定の支援が必要ではないか、また、今後の考えは。

A ①酪農は7軒651頭で県内1位の規模で、肉用牛は7軒453頭で県内7位。②乳価は大きな変動はない状況。③経営安定のための支援は極めて重要であり、生乳の生産費が粗収益を上回っている状況で、必要に応じた助成を検討する。持続可能で魅力のある酪農の実現に向け、国や県への支援策の拡充要望をしていく、また、本市としては総合的に取り組んで行く。

わたSHIGA輝く国スポ・障スポレガシーについて

Q どの競技を優先したり、これからの取組(レガシー事業等)は、また、方向性は。

A 特定の競技に偏ることなく、総合的に推進する。現在はゴルフ・ボッチャ・女子サッカーが本市の特色となっている。ゴルフは観光協会と連携し、健康づくりや生涯スポーツを目指し、ボッチャは本市の「顔となる競技」の一つと位置付け、共生社会づくりのレガシーとして定着を図る。女子サッカーは地域企業との連携も図り、発展に努める。市民の健康づくりや共生社会の実現のため、レガシー創出に努め、甲賀市スポーツ推進計画の理念の実現に努める。

信楽中学校区の学校再編について

Q ①甲賀市教育方針や教育目標に掲げている「郷土への誇りをもち…」という部分に対して、現行の地域性を生かした学びや思いを再編後にどのように生かし、取り組んでいくのかを伺う。②再編後の校舎や敷地の活用について、どのような考えや計画があるのかを伺う。

A ①各小学校で取り組んでいる地域学を、中学校区で再構築し、小学校から中学校の9年間にわたって広く探求する生活科や総合的な学習の時間などのカリキュラムとして体系化し、引き継いでいきたいと考えている。②学区単位での地域コミュニティ維持、災害に備えた防災機能の確保を優先事項として地域づく

りを進めていく必要があると考えている。方針及び地域ごとの計画の策定については、公共施設全体の在り方、必要性、公民連携による手法なども含めて地域の皆様の意見も聞きながら検討したいと考えている。

消防団活動について

Q 団員の減少について、現在どのような対策を講じているのか。また今後の取り組みについて伺う。

A 団員の待遇改善、及び負担軽減や消防団協力事業所制度の充実や支援団員制度の導入などの施策を講じている。組織形態や車両運用なども含めた、甲賀市消防団組織再編計画の見直しを進め、今後のあり方を示す。



瑞誠の会

富増
とみまさ

力章
ちからあき





日本共産党
甲賀市議員団

岡田
あきひろ

重美
しげみ



野洲川支流の次郎九郎川で汚染物質検出。産廃施設が上流にあれば、下流への影響は明らか

Q 野洲川水系にはすでに2つの旧処分場がある。3つ目の産廃施設が建てば、さらに河川への環境負荷がかかる。PFAS汚染源の可能性のある産廃施設が、これ以上野洲川上流に建設されることがあってはならないのではないか。

A 安定型産業廃棄物であっても、廃棄物に有害物質が混入されないと100%言い切れるのかは疑問。河川は一度汚染されると元に戻すことは困難。本市の自然環境、生活環境の保全のため、引き続き最大限の努力を尽くす。

市民に影響を与える開庁時間短縮は再考すべき

Q 職員の働き方改革を目的とし、開庁時間を令和8年5月より9時から16時45分に見直すとのことだが、前後30分1時間の短縮は市民にとって不便になるのではないかと。市民への対応時間が減ることはサービス後退につながるのではないかと。

A オンライン申請など来庁を要しない手続きも増加しており、市民の利便性を損なわない範囲で実施できると考える。職員の働き方改革だけでなく、短縮により確保した時間を業務改善にあてることで、市民サービスの質を高めていくことも目的とする。



瑞誠の会

中島
なつき

裕介
ゆうすけ



市民が「変わった」と実感できる行政へ

Q 市長は「変わった」「良くなった」と言ってもらえる行政運営の姿を、どう描くか。

A 本市の独自性や競争優位を明確にし、強みを伸ばし、市民サービスの更なる向上を図るために、効果的な組織体制を構築し、職員自身が働きやすく、それぞれの力を十分に発揮できる働き方改革を進め、「市役所力の強化」につなぎ、一貫したメッセージを確実に届けるため、外部への発信と市民に向けたプロモーションを強化し、県内トップクラスの子育て施策等「見える化」、移住定住を促進するため駅前周辺整備や区画整理事業を実施するほか、市民の社会的孤立を防止し、新たな地域とのつな

がり創造していく「地域共生社会の実現」に向け、部局横断的な取組を強化していく。

福祉バスの運行基準について

Q ①福祉バスの車両更新計画・更新基準について。②福祉バスの代替交通施策について。

A ①安全面を考慮し、継続しての所有と運行には大きなリスクを抱えることから、すべての車両を廃車し、今後、車両は保有しないことも選択肢の一つとして検討。②サロンをはじめとした地域福祉活動団体については、それぞれの団体補助や自治振興交付金による活用を代替策として検討。

道の駅あいの土山について、防災機能について

Q ①来店客の動向は。②地域情報・観光情報の発信の強化、市民と来訪者との交流の促進の具体化を。③野菜の直売の拡充を。④店内全体の動線、通路幅、商品陳列の改善を。⑤飲食店の営業時間の改善を。⑥大屋根空間やイベントスペースの活用を。⑦駐車場の入口と出口の車の流れの改善を。⑧屋根裏全体の杉の木の板のメンテナンスは。⑨再整備に合わせて付加された防災機能の整備状況は。

A ①8月1日のリニューアルオープンから約4か月で30万人を超える来店。市内が2割、市外が8割の状況。②デジタルサイネージ等を活用し、観光情報やイベント情報など

タイムリーな発信を行う。③野菜棚を新設し直売品を増やす。④地元産品の魅力を引き立てる演出など、買い回りしやすく、魅力ある空間となるよう改善を進めている。⑤土日を中心に営業時間の延長を検討する。⑥地元農産物や加工品を販売するマルシェの定期開催、体験型イベントやワークショップ、地域団体とのコラボ企画など、イベントや直売活動の場として積極的に活用する。⑦関係機関と連携を図りながら安全対策を講じる。⑧耐久性のある防腐処理を施しており約20年間はメンテナンス不要。⑨最大72時間の非常用発電設備や貯水タンク、マンホールトイレ、外部倉庫を設置した。



日本共産党
甲賀市議員団

西山
にしやま

実
みの





無党派

長

源



中山間地域で頑張る農業者が 元気になるような施策の展開を

Q 市内には中山間地の農地も多くあるが、効率が悪いうえ草刈り等管理面積も多く、農業従事者は疲弊している。中山間地で頑張る農業者がさらに元気になるような施策の展開を。

A 中山間地域等直接支払制度の活用に加え、地域の話し合いの場を支援し、地域農業の在り方を農業者と住民が一体となって持続可能な農業の仕組みを検討できるよう取り組んでいく。



中山間地域(今郷地区)

中間支援組織の目指そうとする 在り方や組織設置に向けた 意気込みを

Q 人口減少や高齢化によりまちづくりの担い手が不足する中、中間支援組織の発足に大きな期待をしている。この組織の目指そうとする在り方や組織設置に向けた意気込みを。

A 地域課題等にオール甲賀の総力戦で立ち向かうには、市民、地域、行政をつなぐハブが必要であり、その役割を担うのが中間支援組織である。この組織は市民や団体の挑戦を後押しする伴走者で、組織の設置は未来の甲賀市への投資であり、行政の在り方を変えるための改革でもあるとの強い意思をもって、様々な主体の協力を得ながら、よりよい中間支援の形を模索していきたいと考えている。



凜風会

出

雅之



災害時の個別避難計画について

Q 行政は個別避難計画を作成している区や地域と作成していない区や地域は把握しているのか。

A 同意の上、作成済みは約4割の78地区。エリア別にも把握している。

投票所再編による 投票率の低下について

Q 今回の市議会選挙の投票率が54%、原因をどのように分析されているのか。



わかもの会議について

A 全国的な課題であり、政治への不信や関心の低下、若年層の投票参加の低迷などの複数の要因が影響している。

Q ①この会議の創設の目的は？②4つのテーマで提言書を受理されたが、令和8年度に具体化できそうな施策はどの提言か。

A ①「若者・子育て世代に選ばれるまち」を実現するため、若者の意見を聴き、有効な施策を講じることが必要であると考えた。②「若者定住促進事業」について、「ライトな出会いの場」を企画すること、「わかもの投票率向上事業」では、若者の投票への物理的なハードルを下げていくこと。



無党派

村木
慶太郎



ふるさと納税の 「実質的な財源効果」と 今後の戦略について

Q ふるさと納税制度は導入から一定期間が経過し、全国的に受入額が拡大する一方で、他自治体への寄付に伴う収収減など、実質的な財源効果をめぐる見直しや議論も広がっている。今後の戦略について伺う。

A 寄附により本市を応援していただく甲賀市のファンを増やすとともに、創意工夫により「稼ぐ」ことができるという、制度の特性を活かした財源の確保を、より一層進めていく。寄付者のご意向に沿える行政サービスの充実、信楽焼、ゴルフ、お茶など、地域経済の活性化を図ることについても、産業界と連携しながら戦略的に取り組んでいきたい。

シティプロモーションと ロケツーリズムの連携による 戦略について

Q 「映像のまち甲賀」としての今後の展開と決意について。

A ドラマや映画等のロケ地や舞台は、幅広い世代で楽しめる観光需要を喚起する重要な拠点である。地域産業の活性化にも繋がるきっかけになることから、無限の可能性を秘めたロケツーリズムをシティプロモーションの先陣を切る施策として、オール甲賀で推進していく。



油日神社ロケの様子



瑞誠の会

北田

麗子



オール甲賀で取り組む「あいの土山マラソン」について

Q 運営スタッフ、ボランティアの確保にオール甲賀の取組を促進してはどうか。

A 市内全体に参画の輪を広げ、裾野を拡大していく取組が必要であると考えている。

空き家バンクの具体的な活用と今後のビジョンについて

Q ①空き家マッチング後の提供者及び活用者との交流はあるか。②今後の空き家バンクが目指す将来像は。

A ①活用者との交流は実施している。提供者の声を周知する取組は実施していな

い。空き家で悩まれている方への啓発を検討していきたい。②空き家バンク連絡会議と連携し、不動産取引の活性化と空き家活用の増加に向け取り組んでいく。

ふるさと納税との向き合い方について

Q 宇治田原町の事例を参考に、甲賀市でもふるさと納税の使途について特色のある取組をすべきと考えるがいかがか。

A 制度本来の趣旨に沿った非常に重要な観点であると認識している。本市が抱える問題解決につながり、かつ寄附者の方に共感いただけるような取組についても、調査研究していきたい。



凜風会

西村

慧



JR草津線沿線の土地区画整理事業について

Q ①虫生野東部と寺庄南部の完了見込時期と区画数は。②多くの生徒児童が通行する寺庄南部の道路築造費用の考え方は。③JR草津線利用促進の観点から、利用者増加の試算は。

A ①それぞれの総会資料によると、虫生野東部が令和12年度末で約200区画、寺庄南部が令和11年度末で約90区画を予定。②必要と認められる幹線道路(幅員8m以上)は、用地費と築造費とも全額が市の助成または負担の対象。③貴生川駅は約150人(約4%)、寺庄駅は約70人(約10%)の増加を見込んでいる。

開発行為に伴う交通安全施設の設置について

Q ①カーブミラー等の統一の設置基準は。②周辺環境が変化した場合の考え方は。

A ①警察庁の「交通規制基準」や市の判断基準。②供用開始後、視野が狭くなることはあるので、随時、地元や関係機関と協議する。

甲賀市わかもの会議の成果について

Q 市長として成果であると感じたポイントは。

A 真剣に市の将来を考える機会となり、新たなチャレンジを進める刺激になった。

シティプロモーションに関して

Q ①2024年にGI認定された『水口かんぴょう』を活用して甲賀市ならではのものを返礼品として開発することはできないか(すでに立命館大学と連携して『水口かんぴょう』のレシピ開発はなされているが、有名料亭と提携して新たなレシピで商品開発するなどはどうか)。②土山SAなどで甲賀市のふるさと納税をPRするイベントを開催できないか。

A ①甲賀市在住の有名料亭の料理人の方はテレビでもよく拝見させていただいている。その料理人の方とのコラボレーションは『水口かんぴょう』の新たな魅力向上につながるものと考えている。その新たな料理も含めて、

レシピを使った商品など返礼品としてのあらゆる可能性を研究しながら、『水口かんぴょう』を、ふるさと納税の返礼品や観光資源として活用し、全国へその魅力を発信していきたいと考えている。②ふるさと納税のPRにつきましては、これまでからあるイベントと、より連携したPRとなるよう検討を進めるとともに、本市ならではの茶や信楽焼、忍者、ゴルフといった魅力あふれる特産品など、ふるさと納税の返礼品をピックアップして紹介するなど、庁内の関係各課と連携を図りながら、効果的なPRイベントの開催を検討していきたいと考えている。



凜風会

古賀

友康





凛風会

西田
にしだ
忠
まこと



事故から学ぶ子どもたちの安全

Q 春日交差点で自動車同士が接触し、はみで防護柵に激突する事故があった。この交差点には防護柵の設置されていない角があるが車が突っ込む危険性をどう考えるか。

A 通学路の安全対策の観点から危険性を認識している。子どもの移動経路安全プログラムに基づく合同点検の対象となった場合、道路管理者である県とともに対策内容を検討する。



149名の児童が通う春日交差点

ポジティブ行動支援で子どもたちに笑顔を

Q 先進的な教育アプローチとして「ポジティブ行動支援」が注目されている。これは子どもの「望ましい行動」に対し「褒める」を繰り返し、増やしていく方法で相対的に子どもたちの問題行動を減らす取組である。先行して取り組んでいた地域ではその効果が認められ、数年前から県単位での施策として導入されている。市として検討してはどうか。

A 本市では「信頼ベースの学級・学校づくり」として、児童生徒が互いに認め合い、支え合う環境を整える活動を行っている。「ポジティブ行動支援」の手法も参考にしながら、本市の「発達支持的生徒指導」の充実に努める。

小学校体育館等に空調設備を

Q ①小学校体育館の空調設備の必要性は。②災害時の避難所の観点からはどうか。③避難所指定されているコミュニティセンターのホールなどへの必要性はどう認識するのか。

A ①利用機会が比較的に少なく、多額の費用も必要なことより、公共施設管理計画や防災計画との連携の中で検討する。現時点で計画はない。②国の国土強靱化計画や市の学校再編の進捗を注視していく。③順次対策は講じるが、現時点では空調設備が整った施設を優先指定し、ない施設はスポットクーラー支援など災害協定を充実する。

空き家バンクの利用推進について

Q ①空き家購入者の中には、入居せず放置し管理されない場合や、なかには国外にいる外国人が所有し連絡にも苦勞するケースもある。「甲賀市空き家バンク」を利用した購入者はそうしたことや近隣とのトラブルも聞かない。地域環境維持のため「空き家バンク」利用をさらに推進すべきでは。②行政と地域がもっと「空き家バンク」の広報をすべきではないか。

A ①特に流通の困難な中山間地域の空き家利活用を促進し、地域環境の維持を図る。②広報紙やチラシ、相談会や出前講座、所有者への調査などを地域と連携して取り組む。

国スポ・障スポ開催後のスポーツ振興と健康づくり

Q ①大会開催の成果について市長に伺う。②甲賀市でもスポーツ健康の都市宣言を検討されてはと考えるが市長の所見を伺う。

A ①大会の成果については主に4点あり、1点目は市民・企業・団体の皆様に幅広く関わっていただいたこと、2点目は競技関係者の方々から多くの高評価をいただいたこと、3点目は大会開催を契機とした施設の充実、4点目は市職員の経験と自信の向上であった。②ご指摘のように全国的には「スポーツ・健康都市宣言」や「生涯スポーツ都市宣言」などを制定し、行政として健康施策やスポーツ推進の姿勢を明確に打ち出している自治体もある。本市に

おいても、これまでの取組をさらに発展させ、スポーツを通じた健康増進や地域活性化を一層推進していくことが重要であると認識している。そのため今後、宣言のあり方やその実効性を高める方策については、スポーツ推進審議会や関係団体の意見を聞きながら総合的に判断していくことと考えている。



国スポの総合開会式



凛風会

橋本
はしもと
恒典
ひさのり





凜風会

谷永

兼二



20年後につなぐ安心に向けての中長期財政計画と公共施設等総合管理計画を

Q 人口減少が著しい地域の将来像が描けないような状況とならないか危惧する。市全体ではこれまでの施策や市の持つポテンシャルからすると希望がある。20年後につなぐ安心に向けての考えは。

A 人口は減少に転じており、社会的孤立につながる「すき間の困りごと」への対応、「誰一人取り残さない、地域共生社会の実現」に向けた取組は、さらに必要となる。本市は、他に類を見ない地理的、自然、立地などの特性に恵まれ、「若者・子育て世代に選ばれるまち」に変容するためのポテンシャルや魅力、強みも十分にある地域である。例えば、県内の製造業

を牽引する産業集積地であること、県内トップクラスの子育て施策等に取り組んでいるということ、人口増加の起点となるエリア形成を進めていること、新名神高速道路の恵まれた交通アクセスの効果は計り知れないこと、長い歴史の中で培われてきた地域の文化や産業を守り続けていることなど、こうした伸びしろを活かして得られた利益を、多様な課題に最適形で分配することにより、例えば人口減少地域にあっても、住み慣れた地域で「いつもの暮らし」に幸せを感じられるよう、しっかりと手だてを講じていく。



無党派

若狭

健太



100年先も豊かな甲賀を目指して

Q ①有権者と候補者双方の政治参加を促すため、投票所やポスター掲示場所の情報をオープンデータ化しては。②移動支援として投票所までのバス無料券を配布しては。

A ①市内95箇所の投票所はオープンデータとして公開されている。今後はポスター掲示板の一覧の公開も検討していく。②まずはタクシーでの移動支援をしっかりと取り組む。



カフェに再生した土山宿の空き家

Q ①市が把握している空き家の総数は。②空き家バンクへの年間登録件数と現場での課題は。③空き家に呼び込むための施策は。④成約した物件の年齢層の割合は。⑤若者世代の移住・定住を支援して将来にわたって持続可能な地域を実現しては。

A ①1,772件。②令和6年度は27件。課題は空き家所有者が無関心なケースが多いこと。③空き家を巡るツアーやメディアで空き家バンク物件を取り上げてもらう等を実施。④8割が50代以上。⑤空き家活用は有効な手段のひとつ。地域コミュニティの活性化、人材不足、児童生徒の減少といった課題解決に繋がる。



議場がコンサートホール!!

お知らせ 議場コンサートの開催

議場という普段なかなか入ることのない空間を市民の皆様へ開放し、議会を身近に感じる親しみのある議会づくりとして議場でのコンサートを開催いたします。

- 予定日時 令和8年4月18日(土)
午前中の約1時間
- 募集人数 100名(事前申込制)
- コンサート内容(予定)
フルート2重奏

※募集の詳細は「広報こうか」3月1日号に掲載いたします。